

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-111516

(P2007-111516A)

(43) 公開日 平成19年5月10日(2007.5.10)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 B 17/00 (2006.01)	A 6 1 B 17/00 3 2 0	4 C 0 6 0
A 6 1 B 1/00 (2006.01)	A 6 1 B 1/00 3 3 4 D	4 C 0 6 1
A 6 1 B 17/04 (2006.01)	A 6 1 B 17/04	

審査請求 未請求 請求項の数 12 O L 外国語出願 (全 17 頁)

(21) 出願番号	特願2006-237973 (P2006-237973)	(71) 出願人	595057890
(22) 出願日	平成18年9月1日(2006.9.1)		エシコン・エンドーサージェリィ・インコーポレイテッド
(31) 優先権主張番号	11/217,672		Ethicon Endo-Surgery, Inc.
(32) 優先日	平成17年9月2日(2005.9.2)		アメリカ合衆国、45242 オハイオ州、シンシナティ、クリーク・ロード 4545
(33) 優先権主張国	米国 (US)	(74) 代理人	100066474
			弁理士 田澤 博昭
(特許庁注：以下のものは登録商標)		(74) 代理人	100088605
1. VELCRO			弁理士 加藤 公延
		(74) 代理人	100123434
			弁理士 田澤 英昭

最終頁に続く

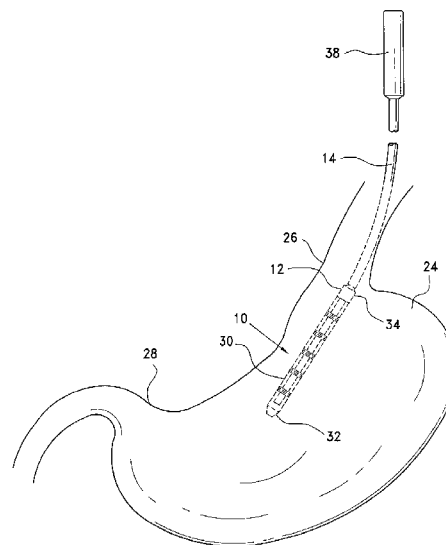
(54) 【発明の名称】 胃縮小手術を一段階で内視鏡的に実施する方法および器具

(57) 【要約】

【課題】 胃縮小手術を一段階で内視鏡的に実施する方法および器具を提供する。

【解決手段】 胃の中にマットレスステッチ縫合をするために、前方および後方胃壁に一連の綿撒糸を適用するように構成された、胃縮小内視鏡器具は、遠位端部および近位端部を有するアプライヤーを含む。このアプライヤーは、食道を通過し胃の中へ下るように成形、寸法決めされた支持シャフトの遠位端部に固定されている。アプライヤーは、吸引スロットを有するアプライヤー本体を含み、吸引スロットは、吸引スロット内に吸い込まれた組織と選択的に結合するために、吸引スロット内に収容された少なくとも1つの綿撒糸を適用するため、中に組織を受容するように成形、寸法決めされている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

パターン化した縫合ステッチを胃の中に作るために前方胃壁および後方胃壁に一連の綿撒糸を適用するように構成された、胃を縮小する内視鏡器具において、

遠位端部および近位端部を有するアプライヤーであって、食道を通過して胃の中へ下るように成形、寸法決めされた支持材の遠位端部に固定されている、アプライヤー、

を具備し、

前記アプライヤーは、吸引スロットを有するアプライヤー本体を含み、前記吸引スロットは、前記吸引スロット内に吸い込まれた組織に選択的に結合するために、前記吸引スロット内に収容された少なくとも 1 つの綿撒糸を適用するため、組織を中に受容するように成形、寸法決めされている、

10

器具。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の器具において、

前記アプライヤー本体は、縦方向に延び、後部の吸引スロットおよび前面の吸引スロットを含む、器具。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の器具において、

前記後部の吸引スロットおよび前記前面の吸引スロットは、綿撒糸の適用中に後方胃壁組織および前方胃壁組織を中に引き込むことができる凹部を画定している前記アプライヤー本体の縦軸に沿って延びている、器具。

20

【請求項 4】

請求項 3 に記載の器具において、

一連の綿撒糸は、前記前面の吸引スロットおよび前記後部の吸引スロット内に備え付けられており、前記綿撒糸は、前記後部の吸引スロットおよび前記前面の吸引スロット内に吸い込まれた組織に選択的に結合するために、前記アプライヤー本体の全長に沿って備え付けられている、器具。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の器具において、

前記綿撒糸は、前記アプライヤー本体内に形成された横の綿撒糸取り付け位置内にそれぞれ備え付けられている、器具。

30

【請求項 6】

請求項 5 に記載の器具において、

第 1 組の綿撒糸凹部は、前記綿撒糸を前記前方胃壁に適用するために前記前面の吸引スロットに沿って形成されており、第 2 組の綿撒糸凹部は、前記綿撒糸を前記後方胃壁に適用するために前記後部の吸引スロットに沿って形成されている、器具。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の器具において、

組織に固定するために前記綿撒糸を作動させる発射機構を、さらに含む、器具。

【請求項 8】

40

請求項 7 に記載の器具において、

前記発射機構は、前記綿撒糸を選択的に閉じるために前記綿撒糸を作動させる発射ウェッジを含む、器具。

【請求項 9】

請求項 1 に記載の器具において、

前記アプライヤー本体の近位端部は、前記支持材に取り付けるために成形、寸法決めされた鉤状の取り付け部材を含む、器具。

【請求項 10】

請求項 9 に記載の器具において、

前記鉤状の取り付け部材は、前記吸引スロット内を減圧するために、前記アプライヤー

50

本体を、前記支持材のサクションラインと連通させている、器具。

【請求項 1 1】

組織に固定するための綿撒系において、

綿撒系に対して針を移動させるために該針を支持する綿撒系本体であって、綿撒系開口部を画定し、前記開口部上を前記針が移動して前記綿撒系開口部を閉鎖し、前記綿撒系開口部内に組織を固定する、綿撒系本体、

を具備し、

前記綿撒系本体は、前記綿撒系の使用前に縫合系を通すために成形、寸法決めされた孔をさらに含む、

綿撒系。

10

【請求項 1 2】

パターン化した縫合ステッチを胃の中に作るために、一連の綿撒系を前方胃壁および後方胃壁に適用するように構成された胃縮小内視鏡器具において、

遠位端部および近位端部を有するアプライヤーであって、食道を通過し、胃の中へ下るように成形、寸法決めされた支持シャフトの遠位端部に固定されており、組織を中に受容するために成形、寸法決めされた吸引スロットを有するアプライヤー本体を含む、アプライヤーと、

前記吸引スロット内に備え付けられた一連の綿撒系であって、前記吸引スロット内に吸い込まれた組織と選択的に結合するために、前記アプライヤー本体の全長に沿って備え付けられている、綿撒系と、

20

を具備する、器具。

【発明の詳細な説明】

【開示の内容】

【0001】

〔発明の背景〕

〔発明の分野〕

本発明は、胃縮小手術に関する。より詳細には、本発明は、胃縮小手術を一段階で内視鏡的に実施する方法および器具に関する。

【0002】

〔先行技術の説明〕

30

病的肥満は、深刻な病状である。実際、病的肥満は米国、およびその他の国において、非常に広がっており、この傾向はおもわしくない方向に向かっているようである。病的肥満に伴う合併症には、高血圧症、糖尿病、冠動脈疾患、脳卒中、うっ血性心不全、複数の整形外科的問題、および平均余命を著しく短くする肺動脈弁閉鎖不全症が含まれる。この点を考慮すると、当業者は、病的肥満に伴う金銭的費用および身体的負担が相当なものであることを十分理解するであろう。実際に、肥満に関連する費用は、米国だけでも100億ドルを越えていると予測されている。

【0003】

肥満を治療するために、さまざまな外科的処置が開発されてきた。現在行われている最も一般的な処置は、ルーワイ(Roux-en-Y)胃バイパス術(RYGB)である。この処置は、非常に複雑で、病的肥満を呈する人々を治療するために一般的に利用されている。しかしながら、この点を考慮して、米国だけでも毎年100,000回を超える処置が、行われている。肥満手術の他の形態には、フォビ嚢(Fobi pouch)、胆-膵転用(bilio-pancreatic diversion)、および胃形成または「胃のステープリング(stomach stapling)」が含まれる。さらに、食物の胃の通過を制限し、満腹感を与える植え込み可能な装置も公知である。

40

【0004】

RYGBには、ルーワイループ(Roux-en-Y loop)を用いた、高い位置への空腸の移動を含む。胃は、自動ステーブル止め装置を用いて、2つの均等でない部分(小さい上方部分と下方の大きな胃嚢)に完全に分割される。上方の嚢は、典型的には約20ミリリット

50

ル（１オンスまたは２０ｃｃ）未満で、一方、下方の大きな胃嚢はおおむね無傷で、腸管を通して流れる胃液を分泌し続けている。

【０００５】

次に、小腸の、ある部分を下腹部から移動させ、上方の嚢と結合させて、瘻孔（stoma）とも呼ばれる、１２．７ｍｍ（０．５インチ）の開口部を通じて作られた吻合部を形成する。小腸のこの部分は「ルーラープ（Roux loop）」と呼ばれ、上方の嚢から腸の残りの部分へ食物を運び、その部分で食物が消化される。次に、残りの下方の嚢および十二指腸の付属の部分が再結合され、瘻孔から約５０～１５０ｃｍのところで、通常はステープル止め器具を使用して、ルーラープへの別の吻合結合部を形成する。この結合部で、バイパスされた胃、脾臓、および肝臓からの消化液が空腸と回腸に入り、食物の消化を助ける。上方の嚢は大きさが小さいので、患者はゆっくりとした速さで食べざるを得ず、より早く満腹感を得られる。この結果、カロリー摂取量が減少する。

10

【０００６】

従来のＲＹＧＢ処置では、非常に多くの手術時間が必要となる。侵襲性の程度により、術後の回復期間が非常に長く、苦痛なものとなりうる。

【０００７】

現在のＲＹＧＢ処置の高い侵襲性を考慮して、低侵襲性の他の処置が開発されてきた。胃縮小術の最も一般的な形態には、胃に沿ってステープルを垂直に適用し、適切な嚢を作ることを含む。この処置は、一般に腹腔鏡下で行い、したがって、術前、術中、術後に相当な方策を必要とする。

20

【０００８】

上記を考慮して、時間効率がよく、患者に優しい方法で胃縮小術を実施できる処置が必要とされている。本発明は、このような方法とそれに関連する器具を提供するものである。

【０００９】

〔発明の概要〕

したがって、本発明の１つの目的は、胃の中にパターン化した縫合ステッチを作るために、前後の胃壁に一連の綿撒系（pledget）を適用するように構成された胃縮小内視鏡器具を提供することである。この器具は、遠位端部および近位端部を有するアプライヤーを含む。このアプライヤーは、食道を通過し、胃へ下るように成形、寸法決めされた支持シャフトの遠位端部で固定されている。アプライヤーは、吸引スロットを有するアプライヤー本体を含み、吸引スロットは、吸引スロット内に吸い込まれた組織と選択的に結合するために吸引スロット内に収容された少なくとも１つの綿撒系を適用するため、組織を内部に受容するように成形、寸法決めされている。

30

【００１０】

組織に固定するための綿撒系を提供することも、本発明の１つの目的である。この綿撒系は、綿撒系に対して針を移動させるためにこの針を支持する綿撒系本体を含む。綿撒系本体は綿撒系開口部を画定しており、その開口部の上で、針が動いて綿撒系開口部を閉鎖し、開口部内に組織を固定する。綿撒系開口部の反対側には、綿撒系を使用する前に縫合系を通すように成形され、寸法決めされた綿撒系孔がある。

40

【００１１】

本発明の他の目的および利点は、以下の詳細な説明を、本発明の特定の実施態様を説明した添付の図面と併せて見ると明らかとなるであろう。

【００１２】

〔好ましい実施態様の説明〕

本発明書の詳細な実施態様をここに開示する。しかしながら、開示された実施態様は、単に本発明の例となるものに過ぎず、さまざまな形態で具体化できることが理解されるべきである。したがって、ここに開示する詳細は、限定的なものではなく、単に特許請求の範囲の根拠として、ならびに当業者に本発明の作り方および（または）使用方法を教示する根拠として解釈されるものである。

50

【 0 0 1 3 】

図 1 ~ 図 1 1 までのさまざまな図を参照すると、実質的に 1 段階で胃縮小術を行うための胃縮小内視鏡器具 1 0 が開示されている。胃縮小器具 1 0 は、食道を通過し、胃の中へ下るように成形、寸法決めされた支持シャフト 1 4 の遠位端部 1 2 に固定されたアプライヤー 3 0 を含む。例えば、マットレスステッチパターンのような、パターン化した縫合ステッチ 2 2、好ましくはマットレスステッチ縫合パターンを、胃 2 4 の中に作るために、綿撒糸とも呼ばれる一連の留め具 1 6 を前方胃壁 1 8 および後方胃壁 2 0 に適用するために、胃縮小器具 1 0 が機能する。縫合糸 2 2 を引っ張って胃 2 4 の前方胃壁 1 8 および後方胃壁 2 0 を近づける場合、削減された経路を作るように、パターン化した縫合ステッチ 2 2 は、胃 2 4 の近位端部 2 6 から遠位端部 2 8 に延在するように配置される。本発明の好ましい実施態様にしたがってマットレスステッチパターンが開示されているが、当業者は、本発明の精神から逸脱することなく、その他の縫合ステッチパターンを使用できることを十分理解するであろう。

10

【 0 0 1 4 】

胃縮小術を行う際に使用するために、本器具がここに記述されているが、当業者は、恒久的に、または一時的に組織を共に引き寄せせる場合に、器具および基本的概念を、さまざまな軟組織並置処置に適用できることを十分理解するであろう。

【 0 0 1 5 】

本胃縮小器具 1 0 の縦方向に延びるアプライヤー 3 0 は、遠位端部 3 2 および近位端部 3 4 を含む。シャフト 1 4 およびハンドル 3 8 は、以下に詳細に述べる形で、アプライヤー 3 0 を作動させるためにアプライヤー 3 0 に固定されている。

20

【 0 0 1 6 】

アプライヤー 3 0 は、通常、縦方向に延びるアプライヤー本体 4 0 を含み、このアプライヤー本体 4 0 は、後部の吸引スロット 4 2 および前面の吸引スロット 4 4 を有する。この後部の吸引スロット 4 2 および前面の吸引スロット 4 4 は、内部に組織を受け入れるように成形、寸法決めされている。スロット 4 2、4 4 は、アプライヤー本体 4 0 の縦軸に沿って延びており、以下で述べるように、綿撒糸 1 6 の適用中に胃壁 1 8、2 0 で後方および前方の胃組織を中に引き入れることのできる凹部を画定している。

【 0 0 1 7 】

アプライヤー 3 0 の近位端部 3 4 は、器具の指示シャフト 1 4 に取り付けるために成形、寸法決めされた鉤状の取り付け部材 4 6 を含む。後部の吸引スロット 4 2 および前面の吸引スロット 4 4 内を減圧するために、鉤状の取り付け部材 4 6 は、アプライヤー本体 4 0 を、支持シャフト 1 4 のサクションライン 4 8 に連通させている。

30

【 0 0 1 8 】

上記の通り、後部の吸引スロット 4 2 および前面の吸引スロット 4 4 は、胃壁 1 8、2 0 の胃組織をスロット内に引き込んで、その組織をアプライヤー本体 4 0 に沿って事前に備え付けられた一連の綿撒糸 1 6 の 3 側面と密接に接触させることができるように成形、寸法決めされている。好ましい実施態様にしたがって、吸引スロット 4 2、4 4 および綿撒糸 1 6 は、3 側面に沿った組織の接触を提供するが、当業者は、この具体的な形状は変更可能であり、組織は、綿撒糸 1 6 の内部表面に密接に接触することのみ必要であることを十分理解するであろう。

40

【 0 0 1 9 】

以下に詳細に述べる形で、後部の吸引スロット 4 2 および前面の吸引スロット 4 4 内に吸い込まれた組織と選択的に結合するために、綿撒糸 1 6 はアプライヤー本体 4 0 の全長に沿って備え付けられている。綿撒糸 1 6 は、アプライヤー本体 4 0 内に形成された横の綿撒糸凹部 5 0 内にそれぞれ装備されている。第 1 組の綿撒糸凹部 5 0 は、前方胃壁 1 8 に綿撒糸 1 6 を適用するために、前面の吸引スロット 4 4 に沿って形成されており、第 2 組の綿撒糸凹部 5 0 は、後方胃壁 2 0 に綿撒糸 1 6 を適用するために、後部の吸引スロット 4 2 に沿って形成されている。使用前、開いた状態の綿撒糸 1 6 は、次に胃壁 1 8、2 0 内に適用するために、それぞれの綿撒糸凹部 5 0 内に位置している。

50

【 0 0 2 0 】

本発明の好ましい実施態様にしたがって、各綿撒系 1 6 は、通常綿撒系本体 5 2 および針 5 4 を含む 2 つの部品の構造でできている。2 つの部品の構造は、本発明にしたがって使用する材料の限られた収量の結果、非常に低い発射力を呈する。さらに、以下に詳細に述べるように、綿撒系本体 5 2 および針 5 4 は、作動中、全組織厚を貫通できるよう、かつ、本発明にしたがって使用する、事前に織った縫合系の配置を容易にするために縫合系を受け入れるように成形、寸法決めされている。綿撒系 1 6 はまた、その作動後に針 5 4 をロックする。

【 0 0 2 1 】

より詳細には、各綿撒系 1 6 は、開口部 5 3 を画定する U 字型の綿撒系本体 5 2 を含み、開口部 5 3 の上を針 5 4 が移動して開口部 5 3 を閉鎖し、組織を開口部 5 3 内に固定する。綿撒系開口部 5 3 の反対には、綿撒系孔 5 6 があり、綿撒系凹部 5 0 内への綿撒系 1 6 の配置前に、縫合系 2 2 が綿撒系孔 5 6 を通過する。

【 0 0 2 2 】

綿撒系本体 5 2 は、中央の接続部材 8 4 によって接続された、上方へ延びる第 1 のアーム 8 0 と上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 を含む。上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 の自由端 8 8 は、針 5 4 が開口部 5 3 を横切って、綿撒系本体 5 2 の上方へ延びる第 1 のアーム 8 0 の自由端 8 6 へ向かって移動するときに、針 5 4 をしっかりと保持し、案内するために成形、寸法決めされた、鳩尾型スロット 9 0 を含む。上方へ延びる第 1 のアーム 8 0 の自由端 8 6 は同様に、作動中、針 5 4 が開口部を横切って移動するときに針 5 4 の前端を受け入れるように成形、寸法決めされた鳩尾型スロット 8 8 を含む。

【 0 0 2 3 】

また各針 5 4 は、隣接面 9 2 を備えており、この隣接面 9 2 により、針が開口部 5 3 を横切って十分に延びた場合に、さらに移動するのを防いでいる。バネクリップ 7 0 も、針 5 4 が発射後、後方に動くことを防ぐために、各針 5 4 の各端部に隣接して備えられている。バネクリップ 7 0 は、一般的に、針 5 4 が開口部 5 3 を横切って移動した後、上方に延びる第 2 のアーム 8 2 の上面 9 4 をつかむように成形、寸法決めされた把持部材である。バネクリップ 7 0 は、針 5 4 が固定位置に向かって移動するときに、上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 の上面 9 4 の前方向きの部分 9 8 までスライドするように成形、寸法決めされた、前方を向いた、低い傾斜 9 6 を含む。

【 0 0 2 4 】

バネクリップ 7 0 が、上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 の前方向きの部分 9 8 まで移動すると、上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 の切り欠き部 1 0 0 がわずかに付勢され、針 5 4 の移動中、低い傾斜 9 6 が前方向きの部分 9 8 を一旦通過すると、バネクリップの後方向きの固定面 1 0 2 が、上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 の後方向きの上面 1 0 4 に係合した状態になる。針 5 4 が発射および移動すると、それぞれのバネクリップ 7 0 は、針 5 4 の後退を防ぐ。これにより、クリップ 7 0 は針 5 4 を回転位置に固定する。

【 0 0 2 5 】

本発明の好ましい実施態様にしたがって、綿撒系 1 6 は孔 5 6 を通る縫合系 2 2 で事前に一列に並べられている。以下に詳細に説明するように、本発明の方法を単純に実施するために、綿撒系 1 6 は、綿撒系孔 5 6 を通して綿撒系 1 6 に取り付けられた縫合系 2 2 によって、胃壁 1 8、2 0 で組織に固定されるのが好ましい。

【 0 0 2 6 】

綿撒系 1 6 は、発射機構 5 8 によって作動する。発射機構 5 8 は、シャフト 1 4 の近位端部と、支持シャフト 1 4 の遠位端部 1 2 に配置されたアプライヤー 3 0 とを結びつける、上述のハンドル 3 8 を含む。ハンドル 3 8 により、後部の吸引スロット 4 2 および前面の吸引スロット 4 4 のそれぞれにわたって綿撒系 1 6 の針 5 4 を回転させる発射ウェッジ 1 0 6、1 0 8 の制御された作動が可能になり、綿撒系 1 6 が胃組織に固定される。

【 0 0 2 7 】

本発明の好ましい実施態様にしたがって、それぞれの綿撒系 1 6 の開口部 5 3 を横切っ

10

20

30

40

50

て針 5 4 が動くために、1 対の発射ウェッジ 1 0 6、1 0 8 をそれぞれの綿撒系 1 6 の作動に用いる。簡潔に説明すれば、発射ウェッジ 1 0 6、1 0 8 はアプライヤー本体 4 0 の全長に沿って前進し、アプライヤー本体 4 0 の全長に沿って配置された綿撒系 1 6 の針 5 4 に順次係合し、針 5 4 を移動させる。第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 は、後部の吸引スロット 4 2 に沿って針 5 4 を発射し、第 2 の発射ウェッジ 1 0 8 は、前面の吸引スロット 4 4 に沿って針 5 4 を発射する。

【 0 0 2 8 】

発射ウェッジ 1 0 6、1 0 8 は実質的に同一である。第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 は、本明細書に記載されており、したがって、当業者は第 2 の発射ウェッジ 1 0 8 の構造および操作を十分に理解することができるであろう。第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 は、針 5 4 の後端に沿ってカム面 1 1 4 に係合するように成形、寸法決めされた前方向きの面 1 1 2 を備えた本体 1 1 0 を含む。前方向きの面 1 1 2 は先細になっており、本発明の器具の作動中、第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 が移動する方向に対して実質的に垂直な方向に面 1 1 2 が針 5 4 を押す形で、針 5 4 のカム面 1 1 4 に係合する。この実施態様は、発射ウェッジの前方向きの面に沿って直線の縁部を用いているが、当業者は第 1 の発射ウェッジの前方向きの面は、本発明の精神から逸脱することなく、針を横に動かすことのできるさまざまな外形で形成することができることを理解するであろう。

【 0 0 2 9 】

第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 は、アプライヤー本体 4 0 の全長に沿って動くために、アプライヤー本体 4 0 の壁に成形された鳩尾型の溝 1 1 6 によって支持されている。この点を考慮して、第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 は、溝 1 1 6 に対して移動するために溝 1 1 6 内に収まるように成形、寸法決めされた結合部材 1 1 7 を備えている。好ましい実施態様にしたがって、溝 1 1 6 は鳩尾型の凹部であり、結合部材は溝 1 1 6 の凹部内にしっかりと収まるように成形、寸法決めされた鳩尾型の結合部である。

【 0 0 3 0 】

実際に、第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 は発射ケーブル 1 1 8 の制御下でアプライヤー本体 4 0 に沿って引かれ、発射ケーブル 1 1 8 は本発明の器具のハンドル 3 8 によって作動する。発射ケーブル 1 1 8 は溝 1 1 6 に沿って発射ウェッジ 1 0 6 を引くと、第 1 の発射ウェッジ 1 0 6 の傾斜のついた前方向きの面 1 1 2 は、それぞれの針 5 4 のカム面 1 1 4 に接触し、またカム面 1 1 4 は鳩尾型のスロット 9 0 に乗る。針 5 4 はアプライヤー本体 4 0 の縦軸の周りでカム運動し、組織を貫通し、最終的には綿撒系本体 5 2 の上方に延びる第 1 のアーム 8 0 と結合する。この時点で、バネクリップ 7 0 は、綿撒系本体 5 2 の上方に延びる第 2 のアーム 8 2 に係合しており、作動位置で針を完全に拘束している。

【 0 0 3 1 】

一旦完全に発射されると、針 5 4 は綿撒系 1 6 の開口部に架かり、開口部内に捕捉された組織は、綿撒系 1 6 のための固定材料としての機能を果たす。針 5 4 はそれぞれの綿撒系 1 6 の受容凹部 9 0 の壁に入り込む。その壁は、隣接部材 9 2 に係合し、針が上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 から上方へ延びる第 1 のアーム 8 0 へ前進移動するのを制限する。

【 0 0 3 2 】

上記の通り、バネクリップ 7 0 は針 5 4 の発射後、針 5 4 が後方移動することを防ぐ。針 5 4 が開口部 5 3 を横切って移動した後、バネクリップ 7 0 は、上方へ延びる第 2 のアーム 8 2 の後方向きの上面 1 0 4 をつかむ。針 5 4 が発射し、移動すると、それぞれのバネクリップ 7 0 は、それぞれの針 5 4 の後退を妨げる。これにより、クリップ 7 0 は、針 5 4 を回転位置に固定する。

【 0 0 3 3 】

事前に通された縫合系 2 2 は、綿撒系 1 6 に形成された縫合系孔 5 6 を通り抜ける。その結果、縫合系 2 2 は、綿撒系 1 6 と針 5 4 によって組織に接続される。これにより、綿撒系 1 6 を発射することができ、次に綿撒系 1 6 を第 2 の段階で連結することができる。

【 0 0 3 4 】

一旦発射を成し遂げると、アプライヤー 3 0 に適用された吸引は取り外され、通気に代

10

20

30

40

50

わる。通気すると胃壁が別々に押され、次に胃壁が、結合した綿撒系 16 をアプライヤー本体 40 内の横の綿撒系凹部 50 から引っ張り、その後アプライヤー本体 40 を胃腔から引き出してもよい。

【0035】

残っているのは、胃 24 の前方胃壁 18 および後方胃壁 20 に沿って、締められていないマットレスステッチまたはその他のステッチパターンを定める形で、綿撒系 16 間に延びる、事前に通した縫合系 22 によって固定された一連の綿撒系 16 である。締められていないマットレスステッチ縫合系 22 の遠位端部 72 は、もっとも遠位側の綿撒系 16 にしっかりと固定されており、外科医は、締められていないマットレスステッチ縫合系 22 の近位端部 74 を、胃鏡 14 を通して見ることができる。

10

【0036】

一旦縫合系 22 をアプライヤー本体 40 から引き抜き、締められていないマットレスステッチ縫合系 22 が胃 24 内に残ると、縫合系 22 は、事前に通された縫合系 22 の近位端部 74 を利用して、簡単に下方へ締まる。これにより、胃壁 18、20 は共に引き付けられ、所望の胃の制限を作り出す。好ましい実施態様にしたがって、縫合線の締め付けが上記に開示されているが、組織の締め付けは、本発明の精神から逸脱することなく、さまざまな様式で行うことができる。

【0037】

図 2 を参照すると、結果として生じた胃の構造は管状部分の構造である。この管状部分は食道と幽門の間の全長に延在してもよく、また食道から幽門の距離の、ある一部分のみに延在してもよい。管状部分の長さに関わらず、胃の残部は、胃酸が食物の流れの中を通ることを可能にする。これにより、より小さい容積の胃およびボラスのための制限的な手段が生み出される。

20

【0038】

縫合線の締め付けが好ましい実施態様にしたがって上記に開示されているが、組織の締め付けは、体の外側で結んだスライドするノットを口および食道に投げ下ろすことで行うことができる。あるいは、エシコン・エンド サージャリー・インコーポレイティッド (Ethicon Endo-Surgery, Inc.) が販売しているような縫合クリップを、系のもっとも近位側の点で、締め付けられた組織上に配置してもよい。

【0039】

別の実施態様にしたがって、図 12 ~ 図 16 を参照すると、針 254 の作動は器具 210 の近位端部から作動される発射バー 266 および発射ハブ 260 によって達成できる。通例、発射機構 258 は、発射ハブ 260 の制御された作動に依存している。発射ハブ 260 は、それぞれの後部の吸引スロット 242 および前面の吸引スロット 244 にわたって、綿撒系 216 の針 254 を回転させ、綿撒系 216 を胃組織に固定する。使用の際、組織が前面の吸引スロット 242 および後部の吸引スロット 244 内に吸い込まれた後、発射機構 258 の発射ハブ 260 が、発射ハブ 260 に堅固に接続された発射ロッド 262 によって作動される。発射ロッド 262 の回転により発射ハブ 260 が同様に回転する。これによって、発射バー 266 がアプライヤー本体 240 の中心周辺を回転する。そして発射バー 266 は、針 254 が胃組織を貫通するように、綿撒系 216 の針 254 を綿撒系 216 の一方から反対側へ押す。さまざまな綿撒系 216 の全ての針 254 を同時に発射する発射バー 266 を提供すると、作業がさらに強化される。

30

40

【0040】

一旦完全に発射されると、針 254 は綿撒系 216 の開口部に架かり、開口部内に捕捉された組織は綿撒系 216 の固定材料としての機能を果たす。針 254 はそれぞれの綿撒系 216 の受容スロット 268 の壁に入り込み、針 254 が前方へ動くのを制限する。バネクリップ 270 は、針 254 が発射された後で後方に動くのを防ぐために、各針 254 の端部に隣接して備えられている。より具体的には、バネクリップ 270 は、針 254 が発射前の位置にあるときには、針 254 に押圧されている、付勢されたストップアームである。針 254 が発射されて動くと、それまでは針 254 に押圧されていたそれぞれのバ

50

ネクリップ 270 は、はね上がって針 254 の後退を防ぎ、したがって、針 254 の回転位置に針 254 を固定する。

【0041】

さらに別の実施態様にしたがって、吸引メッシュを利用できることが考えられる。吸引メッシュは、角度をつけて層状に配置されたスクリーンメッシュの層を含むが、吸い込まれた組織が吸引孔をふさぐのを防ぎ、吸引の配分を可能にする。また、吸引メッシュは、表面を強化し、その表面上で組織が制御される。吸引メッシュは、吸引スロットの基部、および吸引を増加させるためにスロットの側壁に配置することができる。

【0042】

さらに、吸引メッシュと同じ効果を持つステンレススチールまたはポリマーのベルクロ (Velcro) を吸引スロットの基部上に配置することができる。綿撒系の放出後、ベルクロは、後方と前方胃壁をより恒久的に接合するのに役立ち、したがって、胃の動きに固有の、縫合系のいくつかの摩耗に耐える。確実に胃壁に保持されるように、片側のフックと他方の側のツメが、綿撒系と組織の間に取り付けられている。

【0043】

縫合系が一旦完全に配置されると、胃壁が適切な位置に確実に収められるように、内視鏡装置に接続した、遠位側に搭載されたカメラを用いて、検査を実行できる。カメラは、器具の後方を視覚化するために、関節アームまたは後方屈曲アームに搭載してもよい。あるいは、2つのカメラユニットを利用してもよい。この2つのカメラユニットは、前方の図と後方の図の両方を表示するように設計される。加えて、光ファイバー束を器具の中心の下方に配置してもよい。さらに、次にファイバーの近位端部が内視鏡に結合でき、内視鏡を下方へ案内するのに十分な基本的画像を提供する。好ましい実施態様が上記に開示されているが、さまざまな代替案が開発されている。例えば、縫合系の上に管を配置してもよい。綿撒系間の管は、縫合系が組織を縦方向に引っ張って近づけないように、スペーサとして作用する。これによって、締め付け中に囊の長さを維持する。さらに、スペーサ管は、単独の長さ維持スペーサとして作用するために、最初の留め具と最後の留め具の間に配置することができる。

【0044】

当業者であれば必ず理解するように、より恒久的な固定を提供するために、本器具を他の外科的処置および器具と組み合わせてもよい。例えば、エネルギーに基づくこの組織傷害装置は、組織が並置された後で治癒を促進するために、意図的に組織に損傷を与える働きをする。既存の固定技術と平行して、装置に組織傷害を組み込むことによって、組織の損傷した部分に対して、留め具を繰り返し配置できることが保証される。現在考えられている損傷装置は、それぞれが吸引スロットの底面に配置された双極、または単極の2つのストリップを備えており、このストリップは、作動時に組織を損傷する。さらに、本発明にしたがって作った密閉を強化するために、さまざまな組織接着剤を用いることができる。吸引スロット内に吸い込まれている組織に接触するように、市場に出ているフィブリンベースの組織接着剤を吸引スロットの底面に配置することができる。この接着剤により、組織を並置している留め具にかかる負荷が減少し、有効な保持持続期間が増加する。

【0045】

当業者であれば必ず理解するように、本発明は、先行技術に既存する装置とは異なっており、修復縫合技術として用いられるのではなく、むしろ通常接触しない2つの壁を接近させる装置として使用されるものである。さらに、締め付ける媒体はエラストマーではなく、ポリマーである。牽引力がない場合に、綿撒系が係合を維持するように、組織を出し入れすることによって、固定材または綿撒系は組織の陽性対照 (positive tissue control) を得る。縫合系は、綿撒系の固定材に外れないように係合している。その結果、張力がない場合に、縫合系は固定材から外れることができない。

【0046】

好ましい実施態様を示し、説明してきたが、このような開示によって本発明を制限することは意図しておらず、本発明の精神と範囲に含まれる全ての変更構造および代替構造を

10

20

30

40

50

対象とすることを意図していることは理解されるであろう。

【 0 0 4 7 】

〔実施の態様〕

(1) パターン化した縫合ステッチを胃の中に作るために前方胃壁および後方胃壁に一連の綿撒糸を適用するように構成された胃縮小内視鏡器具において、

遠位端部および近位端部を有するアプライヤーであって、食道を通過して胃の中へ下るように成形、寸法決めされた支持材の遠位端部に固定されている、アプライヤー、

を具備し、

前記アプライヤーは、吸引スロットを有するアプライヤー本体を含み、前記吸引スロットは、前記吸引スロット内に吸い込まれた組織に選択的に結合するために、前記吸引スロット内に収容された少なくとも 1 つの綿撒糸を適用するため、組織の中に受容するように成形、寸法決めされている、

器具。

(2) 実施態様 1 に記載の器具において、

前記アプライヤー本体は、縦方向に延び、後部の吸引スロットおよび前面の吸引スロットを含む、器具。

(3) 実施態様 2 に記載の器具において、

前記後部の吸引スロットおよび前記前面の吸引スロットは、綿撒糸の適用中に後方胃壁組織および前方胃壁組織の中に引き込むことができる凹部を画定している前記アプライヤー本体の縦軸に沿って延びている、器具。

(4) 実施態様 3 に記載の器具において、

一連の綿撒糸は、前記前面の吸引スロットおよび前記後部の吸引スロット内に備え付けられており、前記綿撒糸は、前記後部の吸引スロットおよび前記前面の吸引スロット内に吸い込まれた組織に選択的に結合するために、前記アプライヤー本体の全長に沿って備え付けられている、器具。

(5) 実施態様 4 に記載の器具において、

前記綿撒糸は、前記アプライヤー本体内に形成された横の綿撒糸取り付け位置内にそれぞれ備え付けられている、器具。

(6) 実施態様 5 に記載の器具において、

第 1 組の綿撒糸凹部は、前記綿撒糸を前記前方胃壁に適用するために前記前面の吸引スロットに沿って形成されており、第 2 組の綿撒糸凹部は、前記綿撒糸を前記後方胃壁に適用するために前記後部の吸引スロットに沿って形成されている、器具。

(7) 実施態様 1 に記載の器具において、

組織に固定するために前記綿撒糸を作動させる発射機構を、さらに含む、器具。

(8) 実施態様 7 に記載の器具において、

前記発射機構は、前記綿撒糸を選択的に閉じるために前記綿撒糸を作動させる発射ウェッジを含む、器具。

(9) 実施態様 1 に記載の器具において、

前記アプライヤー本体の近位端部は、前記支持材に取り付けるために成形、寸法決めされた鉤状の取り付け部材を含む、器具。

(1 0) 実施態様 9 に記載の器具において、

前記鉤状の取り付け部材は、前記吸引スロット内を減圧するために、前記アプライヤー本体を、前記支持材のサクションラインと連通させている、器具。

(1 1) 実施態様 1 に記載の器具において、

一連の綿撒糸は、前記吸引スロット内に備え付けられており、前記綿撒糸は、前記吸引スロット内に吸い込まれた組織に選択的に結合するために、前記アプライヤー本体の全長に沿って備え付けられている、器具。

(1 2) 実施態様 1 1 に記載の器具において、

前記綿撒糸は、前記アプライヤー本体内に形成された横の綿撒糸凹部内にそれぞれ備え付けられている、器具。

10

20

30

40

50

(1 3) 組織に固定するための綿撒系において、

綿撒系に対して針を移動させるために該針を支持する綿撒系本体であって、綿撒系開口部を画定し、前記開口部上を前記針が移動して前記綿撒系開口部を閉鎖し、前記綿撒系開口部内に組織を固定する、綿撒系本体、

を具備し、

前記綿撒系本体は、前記綿撒系の使用前に縫合系を通すために成形、寸法決めされた孔をさらに含む、

綿撒系。

(1 4) 実施態様 1 3 に記載の綿撒系において、

前記針は、開放位置および閉鎖位置の間で移動し、前記綿撒系開口部内に捕捉された組織と共に前記綿撒系開口部に架かり、前記綿撒系の前記固定材料としての機能を果たす、綿撒系。

10

(1 5) 実施態様 1 4 に記載の綿撒系において、

前記綿撒系本体は、前記針が前記開放位置および前記閉鎖位置の間を移動するとき前方運動を制限する受容凹部を含む、綿撒系。

(1 6) 実施態様 1 4 に記載の綿撒系において、

前記針は、前記針の発射後に前記針の後方運動を防ぐための手段を含む、綿撒系。

(1 7) パターン化した縫合ステッチを胃の中に作るために、一連の綿撒系を前方胃壁および後方胃壁に適用するように構成された胃縮小内視鏡器具において、

遠位端部および近位端部を有するアプライヤーであって、食道を通過し、胃の中へ下るように成形、寸法決めされた支持シャフトの遠位端部に固定されており、組織の中に受容するために成形、寸法決めされた吸引スロットを有するアプライヤー本体を含む、アプライヤーと、

20

前記吸引スロット内に備え付けられた一連の綿撒系であって、前記吸引スロット内に吸い込まれた組織と選択的に結合するために、前記アプライヤー本体の全長に沿って備え付けられている、綿撒系と、

を具備する、器具。

(1 8) 実施態様 1 7 に記載の器具において、

前記アプライヤー本体は、縦方向に延び、後部の吸引スロットおよび前面の吸引スロットを含む、器具。

30

(1 9) 実施態様 1 8 に記載の器具において、

第 1 組の綿撒系凹部は、前記前方胃壁に前記綿撒系を適用するために前記前面の吸引スロットに沿って形成され、第 2 組の綿撒系凹部は、前記後方胃壁に前記綿撒系を適用するために前記後部の吸引スロットに沿って形成されている、器具。

(2 0) 実施態様 1 7 に記載の器具において、

組織に固定するために前記綿撒系を作動させる発射機構、

をさらに含む、器具。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 8 】

【図 1】ある個人の胃の中に配置された、本発明の器具の図である。

40

【図 2】胃の中に配置された、締められていない状態の綿撒系の図である。

【図 3】胃の中に配置された、締められた状態の綿撒系の図である。

【図 4】本発明に従った、綿撒系およびその構成要素の斜視図である。

【図 5】本発明に従った、綿撒系およびその構成要素の斜視図である。

【図 6】本発明に従った、綿撒系およびその構成要素の斜視図である。

【図 7】本発明の器具の前面の斜視図である。

【図 8】本発明の器具の後部の斜視図である。

【図 9】本発明に従った綿撒系の適用を示す断面図である。

【図 1 0】本発明に従った綿撒系の適用を示す断面図である。

【図 1 1】事前に張った縫合系で胃の組織を並置するために固定された綿撒系の断面図で

50

ある。

【図 1 2】図 1 3 ~ 図 1 6 に開示された実施態様で使用された綿撒系の斜視図である。

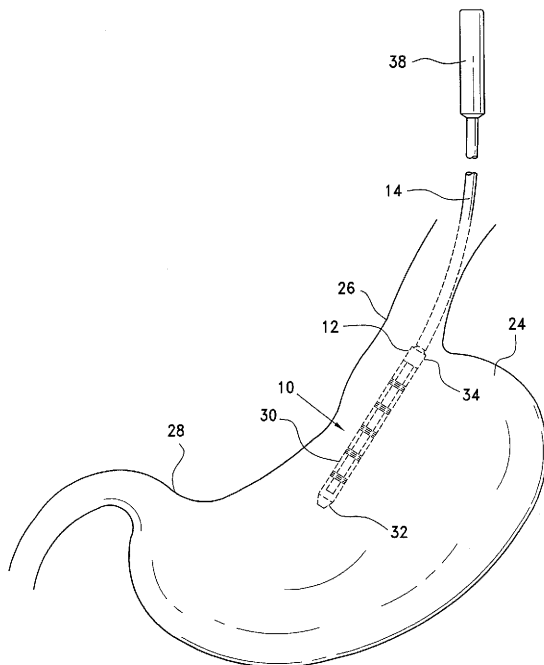
【図 1 3】本発明の別の実施態様の器具の前面の斜視図である。

【図 1 4】本発明の別の実施態様の器具の後部の斜視図である。

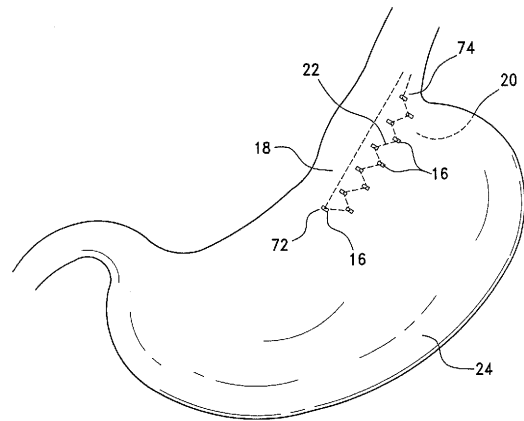
【図 1 5】図 1 3 および図 1 4 に関して開示された実施態様に従った綿撒系の適用を示す断面図である。

【図 1 6】図 1 3 および図 1 4 に関して開示された実施態様に従った綿撒系の適用を示す断面図である。

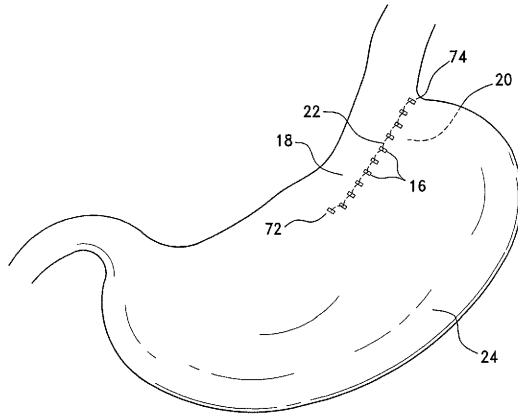
【図 1】



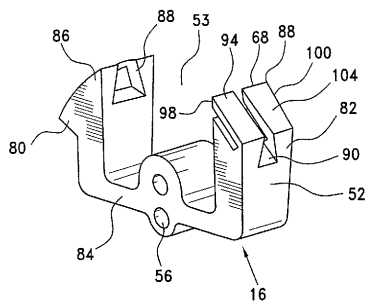
【図 2】



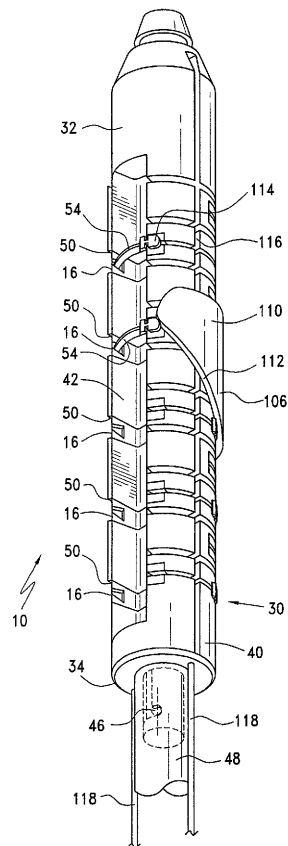
【図 3】



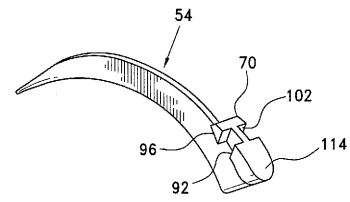
【図 4】



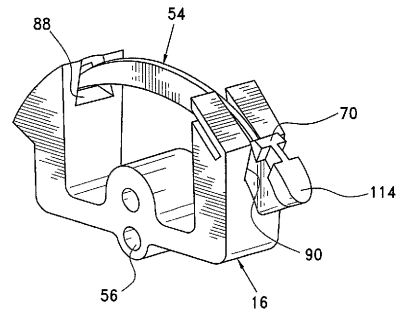
【図 7】



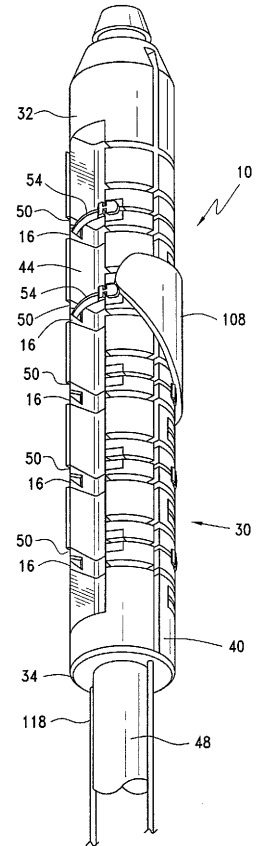
【図 5】



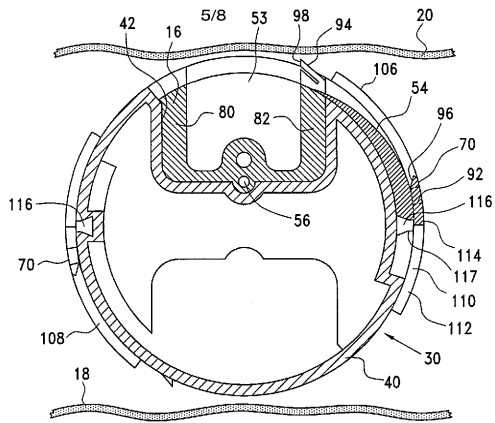
【図 6】



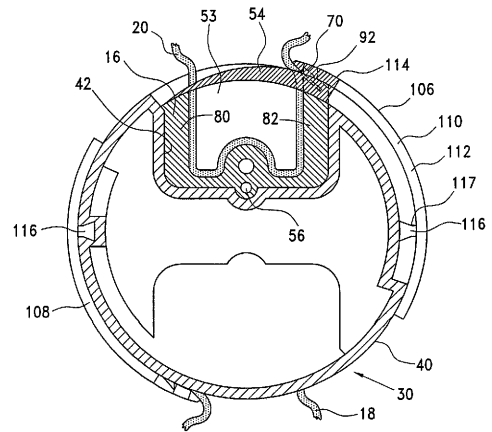
【図 8】



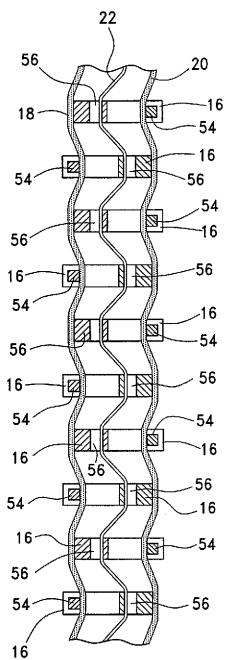
【図 9】



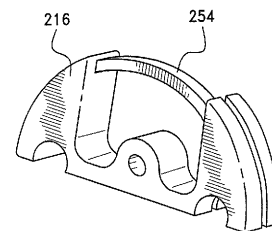
【図 10】



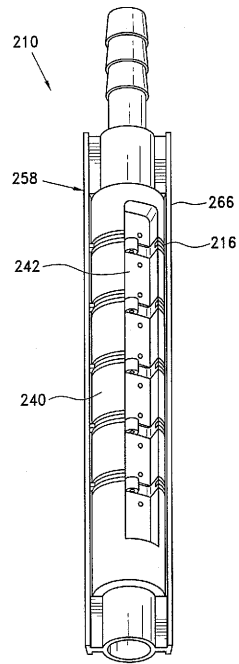
【図 11】



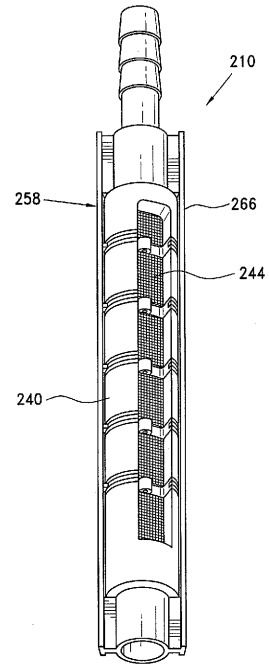
【図 12】



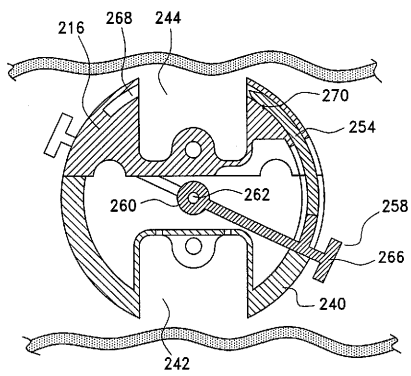
【図 13】



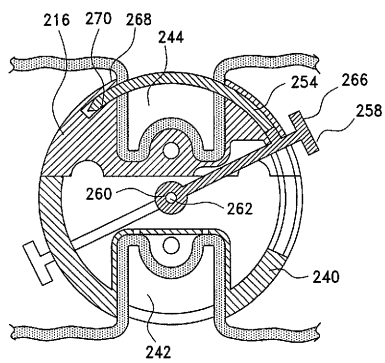
【図 14】



【図 15】



【図 16】



フロントページの続き

(74)代理人 100101133

弁理士 濱田 初音

(72)発明者 マーク・エス・オルティス

アメリカ合衆国、4 5 1 5 0 オハイオ州、ミルフォード、グレン・エコー・レーン 1 1 4 5

(72)発明者 マイケル・ジェイ・ストークス

アメリカ合衆国、4 5 2 4 4 オハイオ州、シンシナティ、スリーピー・ホロー・レーン 8

(72)発明者 ウィリアム・ジェイ・クライマー

アメリカ合衆国、4 5 0 4 0 オハイオ州、メイソン、ブレイスポイント・ドライブ 4 4 1 0

(72)発明者 デイビッド・ビー・グリフィス

アメリカ合衆国、4 5 2 2 6 オハイオ州、シンシナティ、ナンバー 2 9、ケロッグ・アベニュー
4 6 0 9

F ターム(参考) 4C060 BB05 DD02 DD23

4C061 AA01 GG15 HH56

【外国語明細書】

2007111516000001.pdf

专利名称(译)	用于在一个步骤中内窥镜执行胃减容手术的方法和设备		
公开(公告)号	JP2007111516A	公开(公告)日	2007-05-10
申请号	JP2006237973	申请日	2006-09-01
[标]申请(专利权)人(译)	伊西康内外科公司		
申请(专利权)人(译)	爱惜康完 - Sajeryi公司		
[标]发明人	マークエスオルティス マイケルジェイストークス ウィリアムジェイクライマー デイビッドビーグリフィス		
发明人	マーク・エス・オルティス マイケル・ジェイ・ストークス ウィリアム・ジェイ・クライマー デイビッド・ビー・グリフィス		
IPC分类号	A61B17/00 A61B1/00 A61B17/04		
CPC分类号	A61B17/0684 A61B17/00234 A61B17/0401 A61B17/072 A61B2017/00292 A61B2017/0409 A61B2017/0414 A61B2017/0496 A61B2017/07214 A61B2017/306		
FI分类号	A61B17/00.320 A61B1/00.334.D A61B17/04 A61B1/00.620 A61B1/018.515 A61B1/273 A61B17/00		
F-TERM分类号	4C060/BB05 4C060/DD02 4C060/DD23 4C061/AA01 4C061/GG15 4C061/HH56 4C160/BB05 4C160/MM45 4C160/NN01 4C160/NN09 4C160/NN11 4C161/AA01 4C161/GG15 4C161/HH56		
优先权	11/217672 2005-09-02 US		
其他公开文献	JP5042567B2		

摘要(译)

要解决的问题：提供一种用于在一步中内窥镜执行胃减容手术的方法和装置。解决方案：一种内窥镜胃减容装置，其适于将一系列脱脂棉施加到前胃壁和后胃壁以在胃内形成床垫缝合线，包括具有远端和近端的施用器。施加器固定在支撑轴的远端，支撑轴的形状和尺寸适于沿食道向下通入胃中。所述施加器包括施加器主体，所述施加器主体具有抽吸槽，所述抽吸槽的形状和尺寸适于接收其中的组织，用于施加容纳在所述抽吸槽内的至少一个垫片，用于与抽吸槽内抽吸的组织选择性地连接。Ž

